

# 平成23年社会生活基本調査「生活行動」に関する集計結果

平成24年7月24日  
埼玉県総務部統計課

## 1 学習・自己啓発・訓練

### (1) 「学習・自己啓発・訓練」を行った県民は2,381千人、割合は36.8%

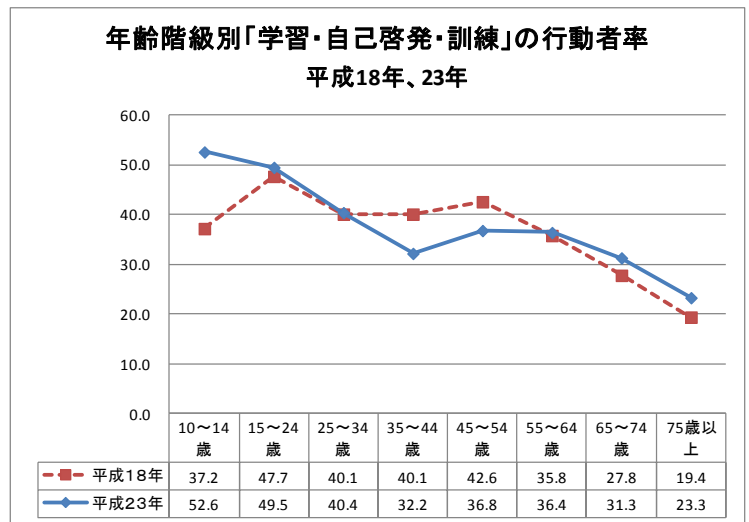
過去1年間に何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行った人は2,381千人（10歳以上。以下同じ。）で、行動者率は36.8%となっている。前回調査（平成18年）では、それぞれ2,383千人、37.7%だった。

男女別でみると、男性が1,174千人、女性が1,207千人となっており、行動者率は男性が36.1%、女性が37.4%となっている。

年齢階級別にみると、10～14歳の行動率が52.6%と最大だった。これは前回調査の37.2%から15.4ポイントの増加となっている。

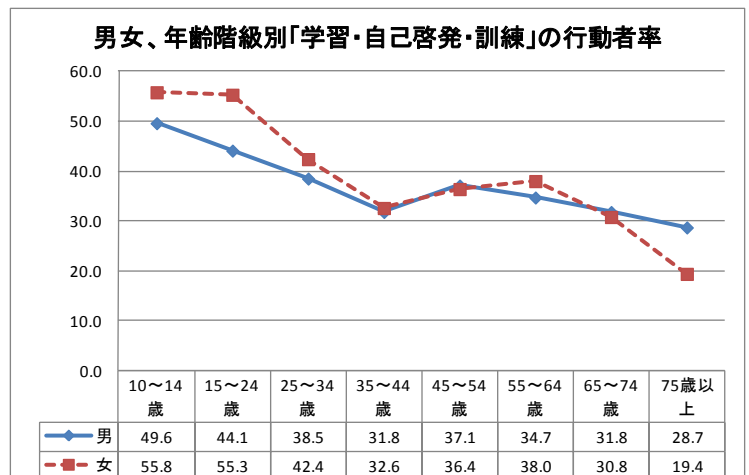
35～44歳と45～54歳では前回調査より減少しており、それぞれ32.2%（-7.9ポイント）、36.8%（-5.8ポイント）だった。

一般的に働き盛りと言われる年代での参加率低下が特徴的だった。



男女別にみると、男性、女性ともに10～14歳が最も高く、男性49.6%、女性55.8%となっている。

男女ともに、35～44歳の年齢階級まで行動者率は低下し、その後、男性では45～54歳、女性では55～64歳までは上昇している。

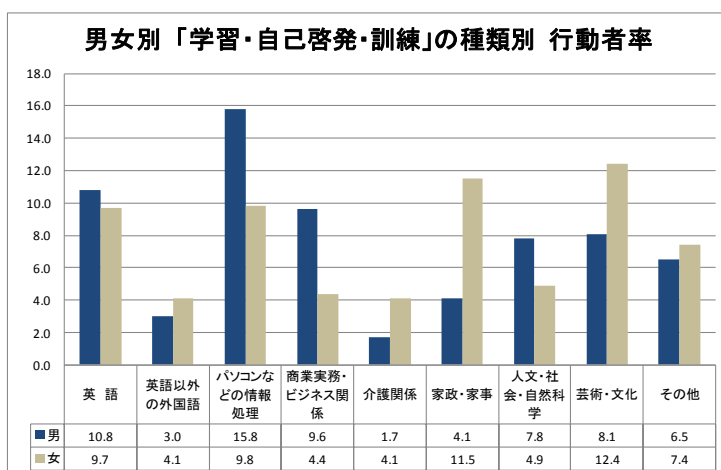
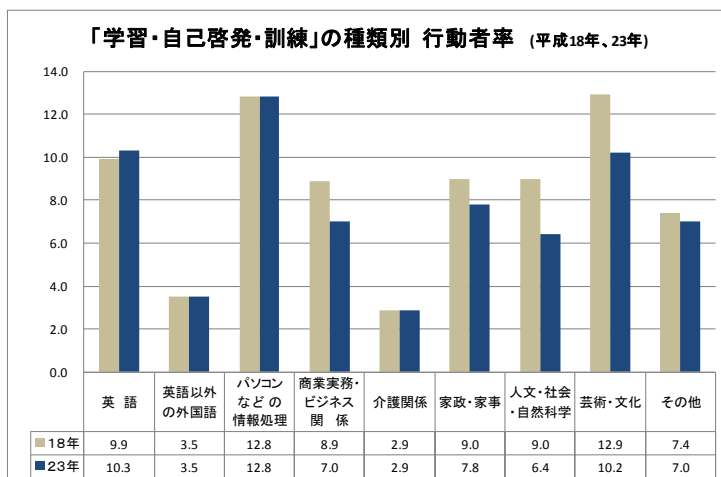


## (2) 「学習・自己啓発・訓練」の種類別の割合は、「パソコンなどの情報処理」の12.8%が最も高い

「学習・自己啓発・訓練」の種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」の12.8%が最も多く、ついで「英語」が10.3%となっている。

行動者率を前回調査（平成18年）と比較すると、「英語」が0.4ポイント増加したが、「芸術・文化」が2.7ポイント減少したのをはじめ、「人文・社会・自然科学」が2.6ポイント減少、「商業実務・ビジネス関係」は1.9ポイント減少している。

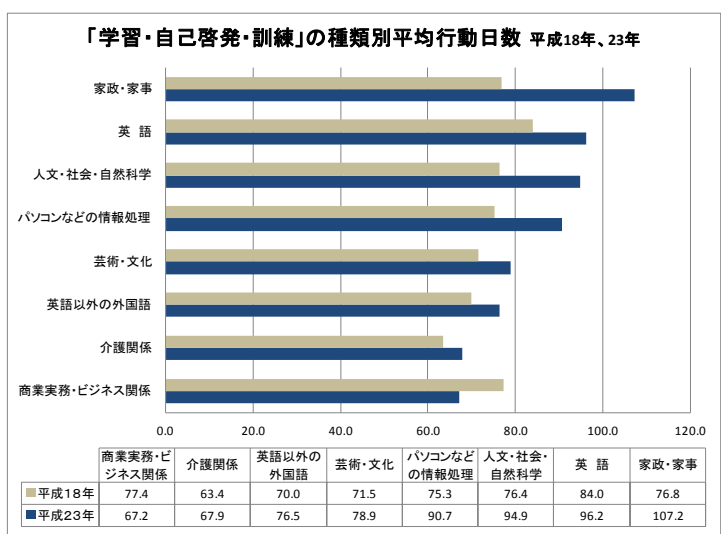
男女別にみると、女性に比べ男性の行動者率が高いのは「パソコンなどの情報処理」、「商業実務・ビジネス関係」などとなっており、男性に比べ女性の行動者率が高いのは「家政・家事」、「芸術・文化」などとなっている。



## (3) 1年間の平均日数は「家事・家政」が最も多い

「学習・自己啓発・訓練」の1年間の平均行動日数をみると、「家政・家事」が107.2日と最も多く、次いで「英語」が96.2日などとなっている。最も少ないのは「商業実務・ビジネス関係」の67.2日だった。

平均行動日数を前回調査（平成18年）と比べると、「家事・家政(30.4日増)」、「人文・社会・自然科学(18.5日増)」、「パソコンなどの情報処理(15.4日増)」で増加している。「商業実務・ビジネス関係」は、10.2日減少した。



## 2 スポーツ

### (1) 「スポーツ」を行った県民の割合は、5年前より2.6ポイント低下

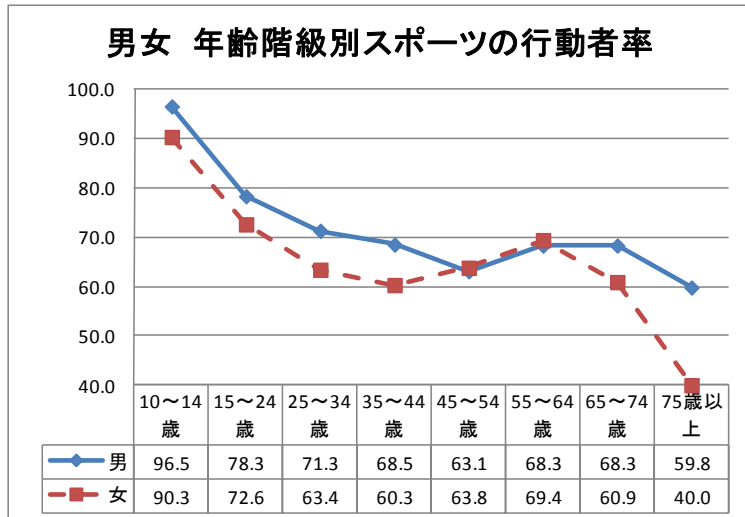
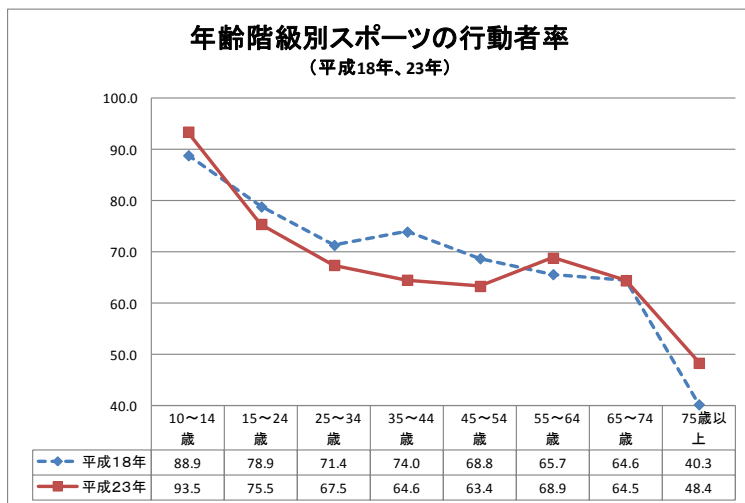
過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は4,330千人（10歳以上。以下同じ。）で、行動者率は66.9%だった。

前回調査（平成18年）では、それぞれ4,397千人、69.5%であり、6.7万人、2.6ポイント低下している。

また、年齢階級別行動者率を前回調査と比較すると、15歳～54歳までの各階級で減少しており、特に、35～44歳が9.4ポイントと大きく減少している。逆に増加したのは10～14歳、55～64歳、65～74歳、75歳以上の各年齢階級だった。75歳以上の増加幅は8.1ポイントと、もっとも大きかった。

男女別に行動者率を見ると、男女とも10～14歳の年齢階級が最も高く、男は45～54歳の年齢階級まで下降していく。その後65～74歳の年齢階級まで上昇を示す。

女は男に比べて下降、その後の上昇が5年早く、35～44歳の年齢階級まで下降したのち、55～64歳の年齢階級まで上昇する。

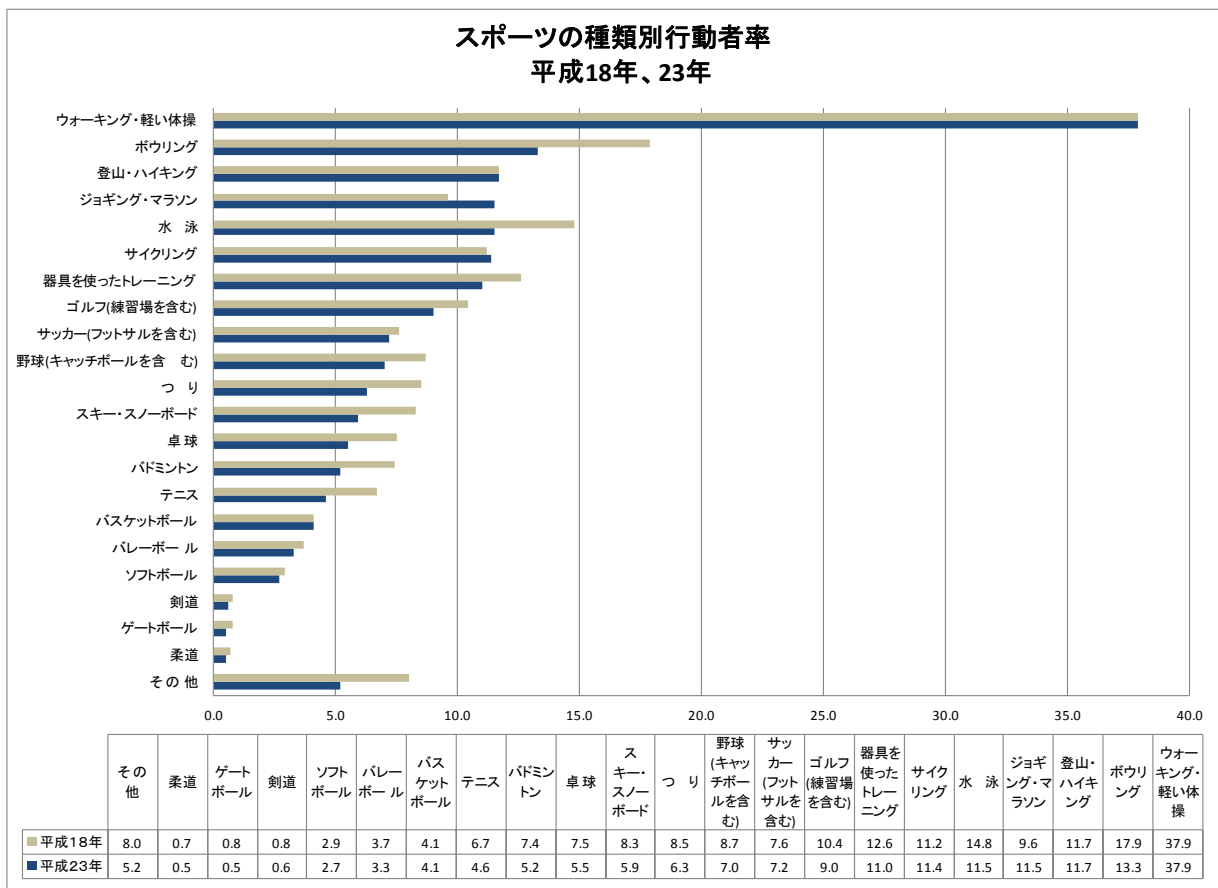


## (2) 「スポーツ」の種類別の割合、サイクリングが向上

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が37.9%で最も高く、次いで「ボウリング」の13.3%、「登山・ハイキング」の11.7%の順となっている。

「スポーツ」の種類別行動者率を前回調査（平成18年）と比べると、増加したのは「サイクリング」の11.4%（0.2ポイント増）と「ジョギング・マラソン」の11.5%（1.9ポイント増）だった。変わらなかったのは、「ウォーキング・軽い体操」と「登山・ハイキング」と「バスケットボール」であった。それ以外の種類での行動率は低下している。

他都道府県との比較では「サッカー」と「卓球」が全国で一位、「サイクリング」と「ジョギング・マラソン」は東京都に次ぐ第2位となった。

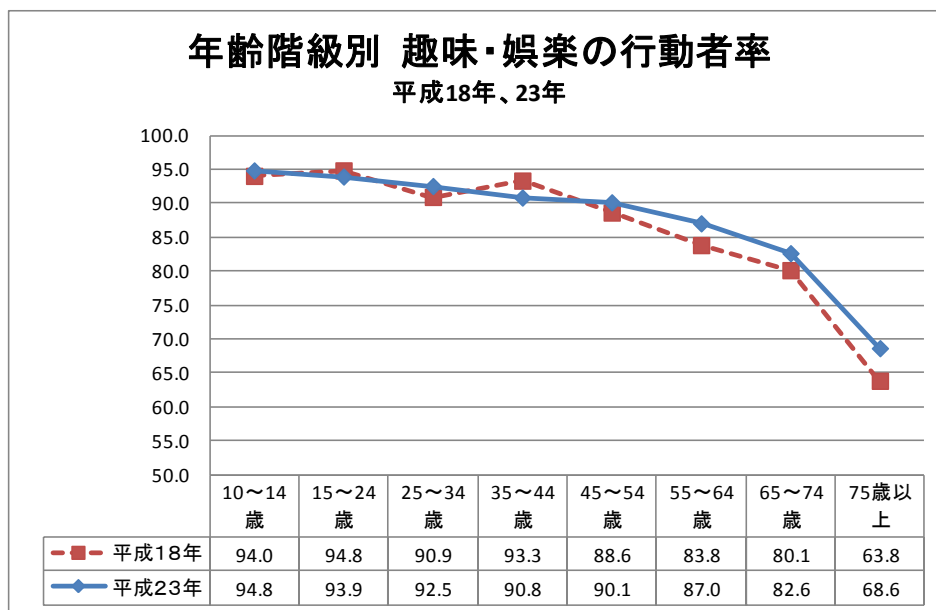


### 3 趣味・娯楽

#### (1) 「趣味・娯楽」を行った県民の割合は、5年前より0.6ポイント上昇

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は約5,691千人(10歳以上。以下同じ。)で、行動者率は87.9%となっている。前回調査では参加者数は5,528千人、参加者率は87.3%で、それぞれ163千人、0.6ポイント上昇している。

男女別でみると、男性が2,848千人、女性が2,842千人となっており、行動者率は男性が87.6%、女性が88.1%で、女性が男性より0.5ポイント高くなっている。



#### (2) 「趣味・娯楽」の種類別の割合は、「CD・テープ・レコードによる音楽鑑賞」の56.3%が最も高い

「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、「CD、テープ、レコードなどによる音楽鑑賞」の50.6%が最も多く、ついで「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画を除く)」の42.8%、「趣味としての読書」の42.3%の順となっている。

これを、年齢階級別にみると、10～14歳では「テレビゲーム」、15～54歳の各年齢階級では「CD、テープ、レコードなどによる音楽鑑賞」、55歳以上の各年齢階級では「園芸・庭いじり・ガーデニング」が最も高くなっている。

年齢階級別、「趣味・娯楽」の種類別行動者率の順位

	1位	2位	3位
10～14歳	テレビゲーム・パソコンゲーム(家庭で行うもの、携帯用を含む)	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画は除く)	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞
15～24歳	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞	テレビゲーム・パソコンゲーム(家庭で行うもの、携帯用を含む)	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画は除く)
25～34歳	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画は除く)	テレビゲーム・パソコンゲーム(家庭で行うもの、携帯用を含む)
35～44歳	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画は除く)	遊園地、動植物園、水族館などの見物
45～54歳	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞(テレビからの録画は除く)	趣味としての読書
55～64歳	園芸・庭いじり・ガーデニング	趣味としての読書	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞
65～74歳	園芸・庭いじり・ガーデニング	趣味としての読書	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞
75歳以上	園芸・庭いじり・ガーデニング	趣味としての読書	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞

## 4 ボランティア活動

### (1) 「ボランティア活動」を行った県民の人数は、前回調査に比べて3万2千人増加

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は1,556千人(10歳以上。以下同じ。)で、前回調査(平成18年)と比べ32千人増加した。行動者率は24.0%で、前回調査と比べ0.1ポイントの減少だった。

男女の内訳では、男性が653千人、女性が903千人となっており、前回調査に比較して男性は4.6万人減少、女性は7.8万人増加した。行動者率は男性が20.1%、女性が28.0%で、女性が男性より7.9ポイント高くなっている。

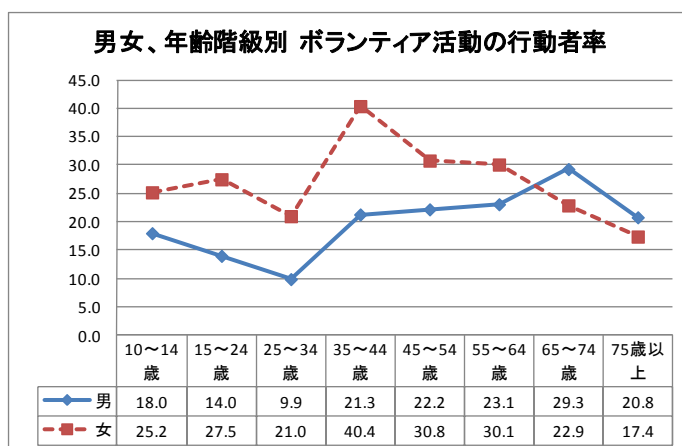
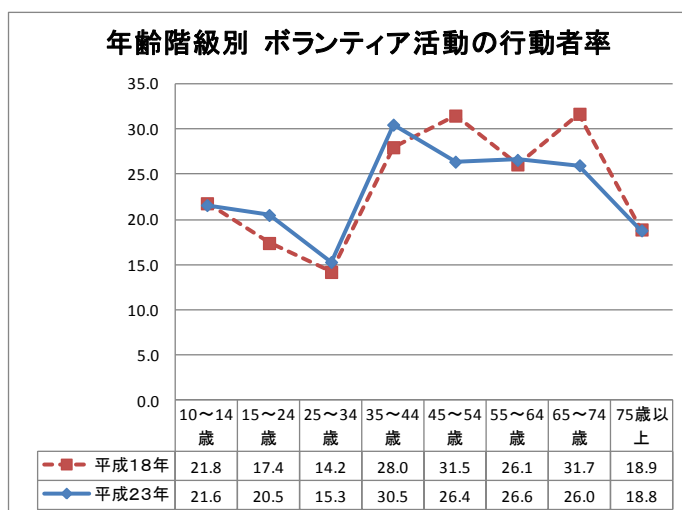
前回調査との比較で、男性が1.8ポイント低下、女性が1.7ポイントの増加となった。

前回調査では65～74歳の階級が31.7パーセントと最も高かったが、23年では35～44歳が30.5%と最も高くなっている。最も低い年齢階級は25～34歳であり、前回調査と変わっていない。

15～24歳での行動者率が20.5%で、3.1ポイント増加した。また、25～34歳、35～44歳の年齢階層でも増加が見られる。

45歳以上の各年齢層では、55～64歳を除き、前回調査よりも減少している。

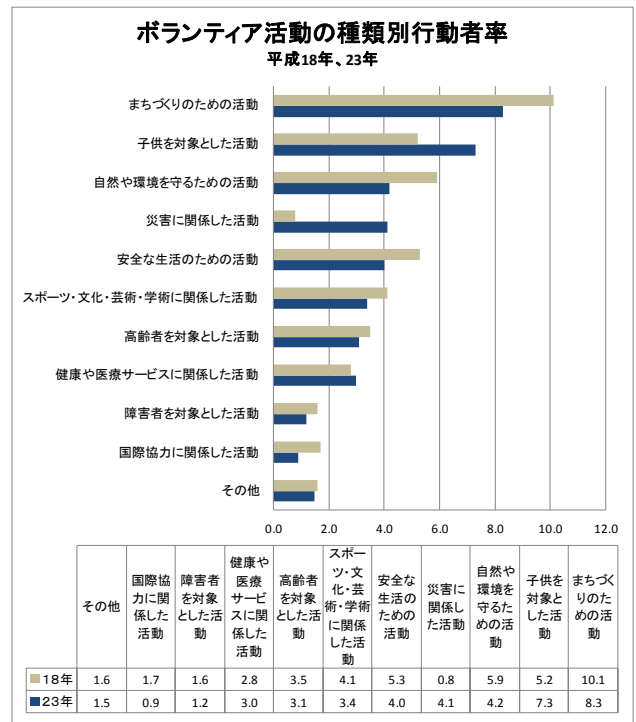
男女別の比較では、65歳以上の各年齢階級を除いて、女性の方が高い。特にその差が開いているのは35～44歳で、19.1ポイントの差となっている。



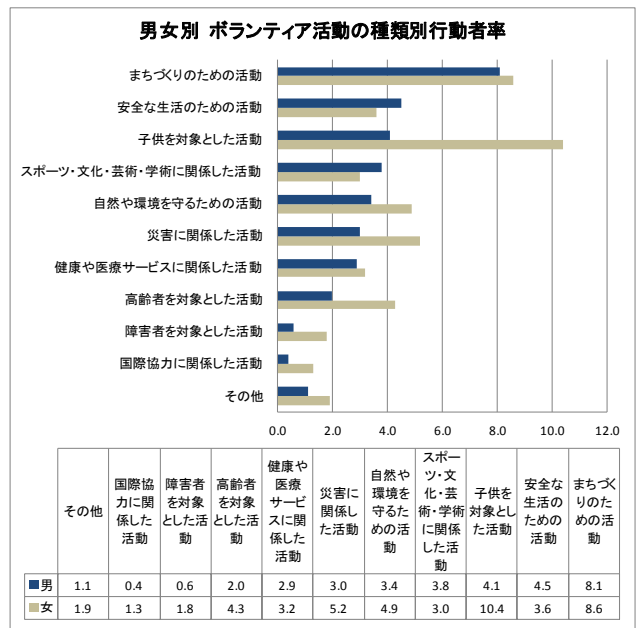
(2) 「ボランティア活動」の参加率で最も増加したのは「災害に関係した活動」で、増加幅は3.3ポイントだった

「ボランティア活動」の種類別に行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が8.3%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が7.3%、「自然や環境を守るための活動」が4.2%などとなっている。

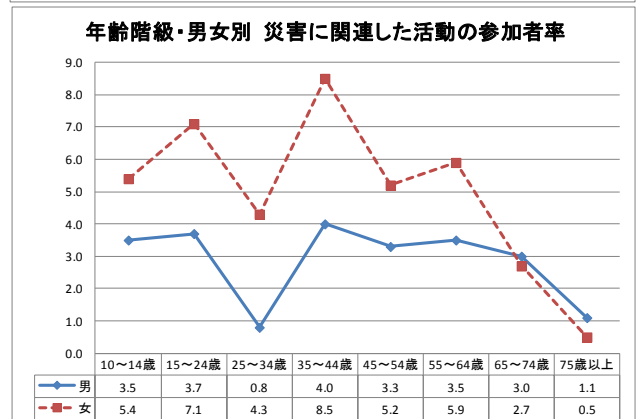
「災害に関係した活動」は前回の0.8%が4.1%と3.3ポイント増え、増加幅としては最大となった。このほかに「子供を対象とした活動」（2.1ポイント）、「健康や医療サービスに関係した活動」（0.2ポイント）が上昇しているが、その他の種類では減少した。



「ボランティア活動」の種類別の参加者率を男女別にみると、男性では「まちづくりのための活動」が最も高く、女性では「子供を対象とした活動」が最も高い。ついで男性は「安全な生活のための活動」、「子供を対象とした活動」、女性は「まちづくりのための活動」、「災害に関連した活動」などとなっている。



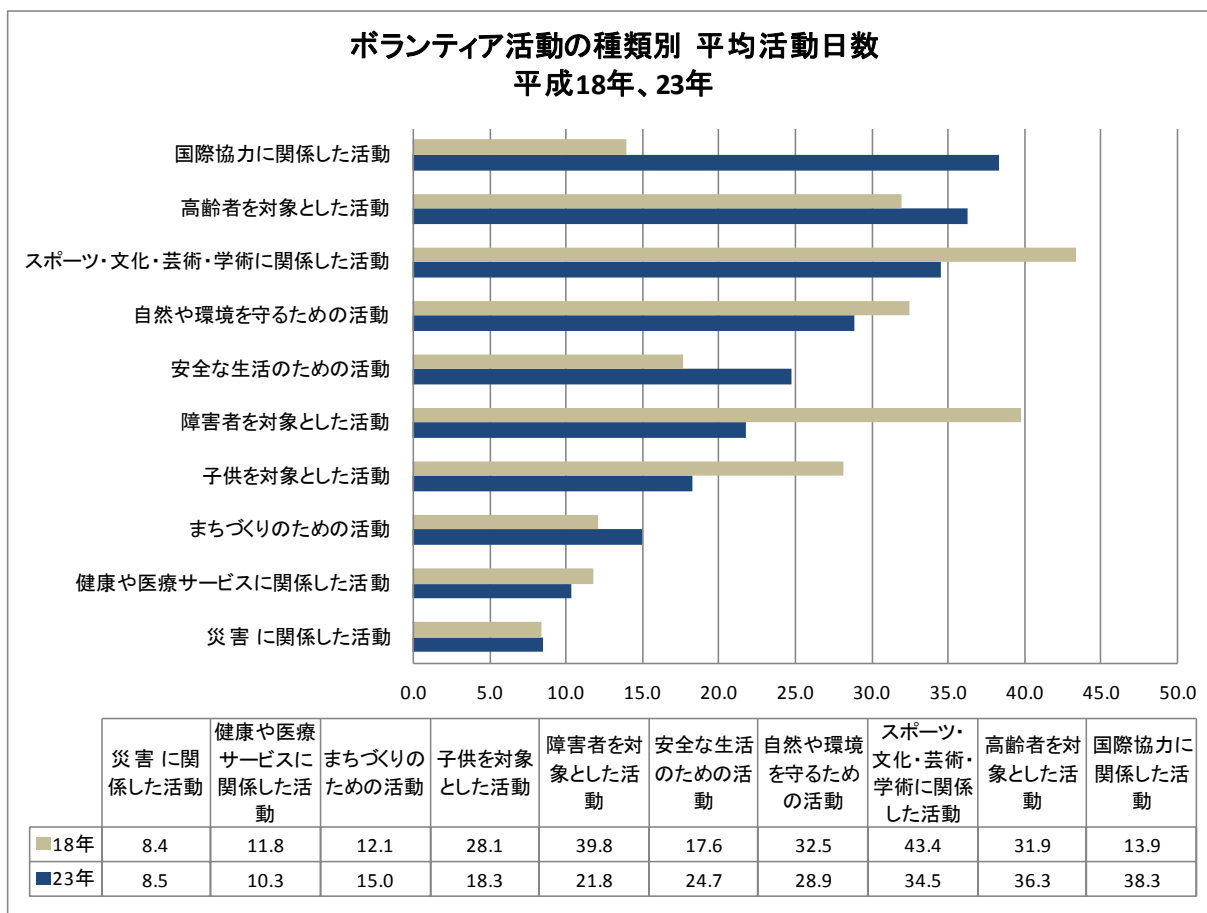
「災害に関連した活動」の参加率を年齢階級別、男女別にみると、65歳以上の年齢階級を除き、女性の参加率が高い。特に35～44歳の階級では4.5ポイント、25～34歳の階級では3.5ポイントの差が出ている。



### (3) 1年間の平均日数は、「国際協力に関係した活動」が最も多い

「ボランティア活動」の1年間の平均行動日数をみると、「国際協力に関係した活動」が38.3日と最も多く、次いで「高齢者を対象とした活動」が36.3日、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が34.5日、「自然や環境を守るための活動」が28.9日などとなっており、最も少ないのは「災害に関係した活動」で8.5日となっている。

「ボランティア活動」の種類について、前回調査（平成18年）と比べると、「国際協力に関係した活動」、「高齢者を対象とした活動」、「安全な生活のための活動」、「まちづくりのための活動」、「災害に関係した活動」で平均行動日数は増加しているが、その他では減少した。





## 5 旅行・行楽

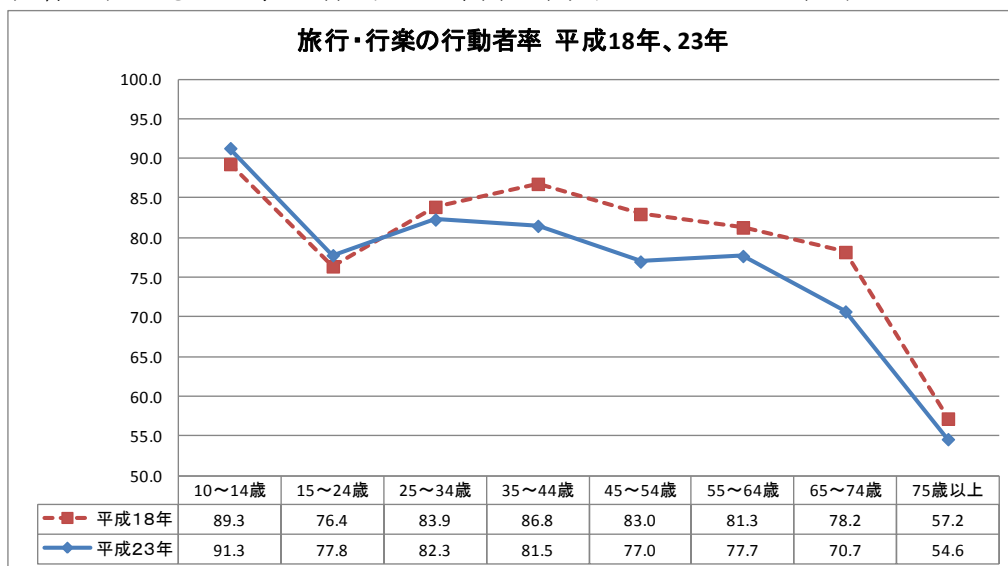
### (1) 「旅行・行楽」を行った県民の割合は、5年前に比べ4.0ポイント低下した

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は4,967千人（10歳以上。以下同じ。）で、行動者率は76.7%となっている。前回調査（平成18年）と比較すると、142千人、4.0ポイントの減少となった。

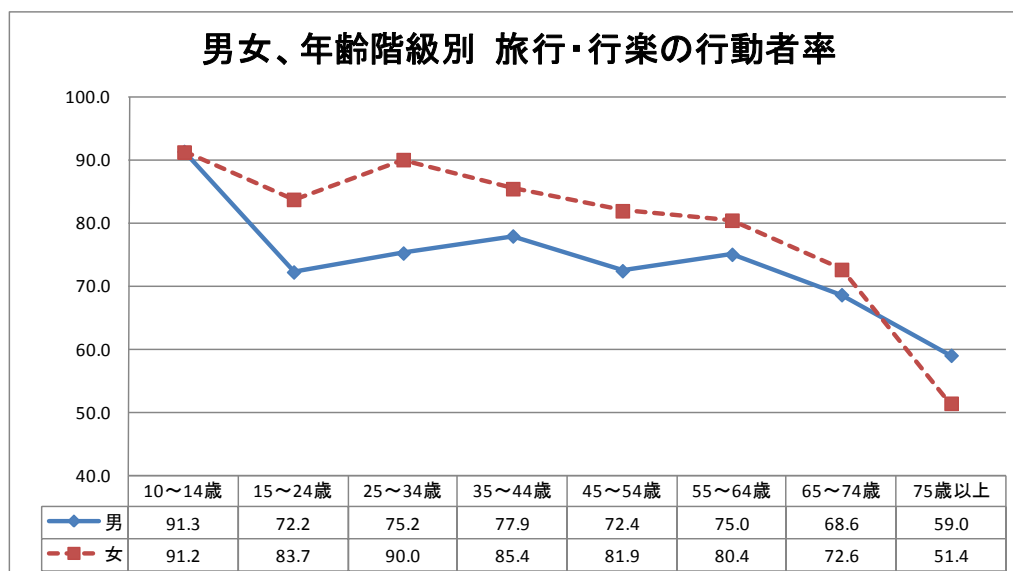
男女別の内訳は男性が2,397千人、女性が2,571千人となった。行動者率は男性が73.7%、女性が79.7%で、女性が男性より6.0ポイント高くなっている。

行動者率を前回調査と比較すると、男性が5.6ポイント低下、女性が2.5ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が最も高く、25～34歳と55～64歳で若干増加するものの、全体的には年齢が高くなるにつれて低下を示している。



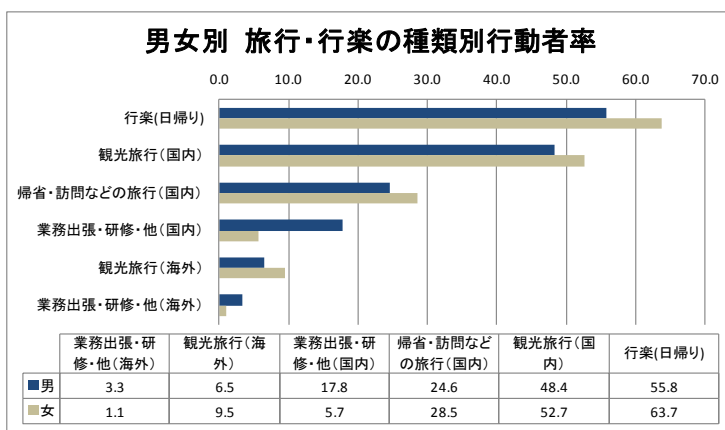
男女別にみると、10～14歳及び75歳以上を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。特に大きな差があるのは、25～34歳の14.8ポイント、15～24歳の11.5ポイントである。



## (2) 「旅行・行楽」の種類別の割合は、「行楽（日帰り）」の59.8%が最も高い

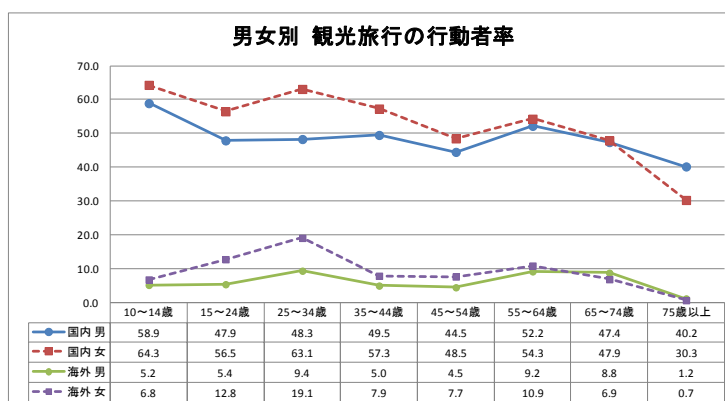
「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽（日帰り）」が59.8%、国内の観光旅行が50.5%、海外の観光旅行が8.0%となっている。

これを男女別にみると、国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除き、すべての種類で女性の方が高くなっている。



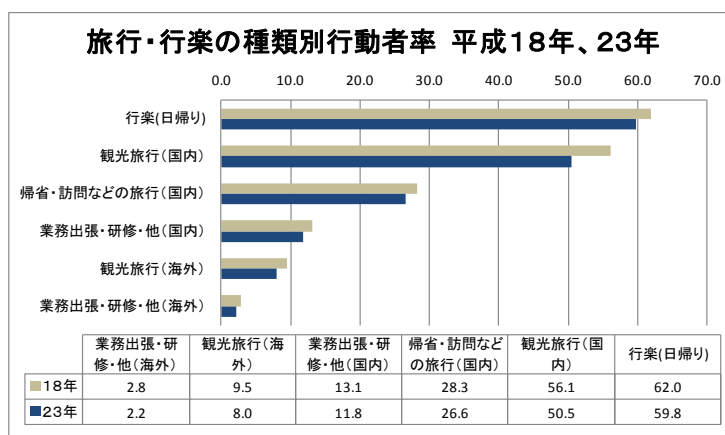
「旅行・行楽」の種類別の行動者率を男女別年齢階級別にみると、「観光旅行（国内）」では、男性は10～14歳の58.9%が最も高く、次いで55～64歳の52.2%と続いている。女性は10～14歳の64.3%が最も高く、次いで25～34歳の63.1%の順となっている。

「観光旅行（海外）」については、男性、女性ともに25～34歳が最も高くなっており、それぞれ9.4%、19.1%だった。



前回調査（平成18年）と比べると、すべての種類で行動者率は低下している。

調査が東日本大震災から約半年経過した平成23年10月に実施されており、旅行の「自粛」などの影響があったことも要因の一つとして考えられる。



## 【参考】行動者率の全国の地位と推移

### 1 学習・自己啓発・訓練

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	35.2	—	全国	35.2	—	全国	36.2
1	東京都	44.7	1	東京都	43.8	1	東京都	44.8
2	神奈川県	42.1	2	神奈川県	43.4	2	神奈川県	43.3
3	滋賀県	39.2	3	奈良県	40.9	3	千葉県	41.4
4	奈良県	38.4	4	千葉県	40.1	4	京都府	41.0
5	京都府	37.9	5	滋賀県	37.8	4	奈良県	41.0
8	埼玉県	36.8	6	埼玉県	37.7	7	埼玉県	38.1
47	秋田県	25.4	47	青森県	24.0	47	青森県	22.2

(1) 学習・自己啓発・訓練のうち「商業実務・ビジネス関係」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	6.0	—	全国	7.6	—	全国	7.3
1	東京都	9.8	1	東京都	11.3	1	東京都	9.8
2	神奈川県	7.4	2	神奈川県	10.6	2	神奈川県	9.0
3	埼玉県	7.0	3	埼玉県	8.9	2	奈良県	9.0
3	京都府	7.0	3	千葉県	8.9	4	千葉県	8.9
5	滋賀県	6.8	5	奈良県	8.6	4	滋賀県	8.9
5	奈良県	6.8				6	埼玉県	8.4
46	秋田県 高知県	3.7	47	秋田県	4.3	47	青森県	4.5

(2) 学習・自己啓発・訓練のうち「芸術・文化」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	10.0	—	全国	11.2	—	全国	9.5
1	東京都	14.4	1	東京都	16.2	1	東京都	14.9
2	奈良県	13.0	2	奈良県	15.0	2	京都府	13.4
3	京都府	12.8	3	神奈川県	14.3	3	神奈川県	11.6
4	神奈川県	12.2	4	京都府	13.3	4	奈良県	11.1
5	長野県	11.3	5	埼玉県	12.9	5	滋賀県	11.0
11	埼玉県	10.2	6			14	埼玉県	9.0
47	青森県	6.7	47	大分県	6.9	47	青森県	5.6

※主な学習・研究の種類

英語、英語以外の外国語、パソコンなどの情報処理、商業実務・ビジネス関係、介護関係、家政・家事、人文・社会・自然科学、芸術・文化

## 2 スポーツ

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	63.0	—	全国	65.3	—	全国	72.2
1	東京都	68.6	1	神奈川県	71.8	1	埼玉県	76.7
2	滋賀県	67.9	2	埼玉県	69.5	2	東京都	76.0
3	埼玉県	66.9	3	滋賀県	69.1	3	滋賀県	75.1
4	神奈川県	66.1	4	東京都	69.0	4	千葉県	74.9
5	千葉県	66.0	5	千葉県	68.4	5	神奈川県	74.6
47	青森県	49.4	47	青森県	53.9	47	青森県	60.1

### (1) スポーツのうち「サッカー」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	5.6	—	全国	6.0	—	全国	5.8
1	埼玉県	7.2	1	山梨県	8.2	1	埼玉県	7.6
1	静岡県	7.2	2	埼玉県	7.6	2	神奈川県	7.2
3	東京都	7.0	3	宮城県	7.3	3	滋賀県	6.9
4	山梨県	6.4	3	茨城県	7.3	4	千葉県	6.8
5	愛知県	6.2	5	神奈川県	7.2	5	北海道、東京都、山梨県	6.6
47	和歌山県	3.3	47	香川県	3.7	47	香川県	3.2

### (2) スポーツのうち「卓球」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	4.5	—	全国	6.4	—	全国	7.6
1	埼玉県	5.5	1	神奈川県	9.0	1	神奈川県	9.3
1	富山県	5.5	2	埼玉県	7.5	2	岩手県	9.0
3	神奈川県	5.4	2	愛知県	7.5	3	鳥取県	8.9
3	鳥取県	5.4	4	宮城県	7.3	4	京都府	8.7
5	三重県	5.2	5	北海道	7.2	4	石川県	8.7
						6	埼玉県	8.5
45	和歌山県 長崎県 宮崎県	2.9	47	長崎県	3.8	47	長崎県	4.4

### (3) スポーツのうち「サイクリング」の行動者率

平成23年			平成18年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	8.9	—	全国	8.8
1	東京都	15.4	1	東京都	14.0
2	埼玉県	11.4	2	埼玉県	11.2
3	神奈川県	11.3	2	茨城県	11.2
4	千葉県	10.4	4	千葉県	11.1
5	群馬県	9.8	4	神奈川県	11.1
47	沖縄県	4.1	47	長崎県	3.8

※平成13年のデータはない

### 3 趣味・娯楽

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	84.8	—	全国	84.9	—	全国	85.9
1	神奈川県	88.7	1	神奈川県	89.3	1	埼玉県	89.3
2	東京都	88.5	2	東京都	88.5	2	東京都	89.1
3	埼玉県	87.9	3	千葉県	87.5	3	神奈川県	88.9
4	奈良県	87.1	4	滋賀県	87.4	4	滋賀県	88.5
5	広島県	86.7	5	埼玉県	87.3	5	千葉県	88.4
47	青森県	75.0	47	青森県	76.0	47	青森県	77.2

#### (1) 趣味・娯楽のうち「趣味としての読書」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	39.5	—	全国	41.9	—	全国	45.5
1	東京都	49.6	1	東京都	52.0	1	東京都	54.4
2	神奈川県	48.6	2	神奈川県	50.8	2	神奈川県	52.2
3	千葉県	43.2	3	千葉県	46.6	3	埼玉県	51.2
3	奈良県	43.2	4	埼玉県	45.4	4	千葉県	50.6
5	埼玉県	42.3	5	京都府	45.2	5	京都府	49.3
47	高知県	29.3	47	青森県	32.4	47	青森県	33.2

#### (2) 趣味・娯楽のうち「カラオケ」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	29.0	—	全国	31.8	—	全国	39.1
1	沖縄県	35.4	1	神奈川県	36.4	1	埼玉県	44.8
2	東京都	34.1	2	東京都	36.3	2	千葉県	44.4
3	神奈川県	32.3	3	奈良県	34.3	3	大阪府	43.4
4	埼玉県	31.5	4	埼玉県	34.1	4	東京都	43.2
5	大阪府	31.2	5	沖縄県	34.0	4	神奈川県	43.2
47	高知県	21.8	46	岩手県 秋田県	23.8	47	青森県	28.9

#### ※ 主な「趣味・娯楽」の種類

テレビゲーム・パソコンゲーム、DVD・ビデオなどによる映画鑑賞、CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞、映画鑑賞、読書、遊園地、動植物園、水族館などの見物カラオケ、楽器の演奏、スポーツ観覧、料理・菓子作り

#### 4 ボランティア活動

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	26.3	—	全国	26.2	—	全国	28.9
1	山形県	35.3	1	鳥取県	34.5	1	鹿児島県	40.1
2	島根県	34.8	2	島根県	34.0	2	山梨県	39.6
3	鹿児島県	34.4	2	滋賀県	34.0	3	滋賀県	39.3
4	鳥取県	33.9	4	福井県	33.6	4	岐阜県	38.5
5	岩手県	33.7	5	鹿児島県	33.2	5	長野県	37.1
39	埼玉県	24.0	39	埼玉県	24.1	41	埼玉県	26.7
47	大阪府	20.6	47	沖縄県	19.7	47	大阪府	21.7

##### (1) ボランティア活動のうち「災害に関係した活動」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	3.8	—	全国	1.2	—	全国	1.4
1	岩手県	11.1	1	長野県	3.1	1	高知県	4.0
1	宮城県	11.1	2	宮崎県	2.7	2	山梨県	2.4
3	山形県	6.9	3	静岡県	2.3	3	鳥取県	2.3
4	福島県	6.5	3	鹿児島県	2.3	4	長野県	2.0
5	山梨県	5.9	5	千葉、山梨	1.7	5	三重県 東京都	1.9
11	埼玉県	4.1	39	埼玉県	0.8	8	埼玉県	1.7
47	広島県	2.0	47	大阪府	0.6	45	富山県 和歌山県 長崎県	0.7

##### (2) ボランティア活動のうち「高齢者を対象とした活動」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	3.7	—	全国	4.4	—	全国	5.1
1	島根県	6.0	1	島根県	6.9	1	鹿児島県	9.1
1	鹿児島県	6.0	2	熊本県	6.7	2	長野県	9.0
3	山梨県	5.6	2	宮崎県	6.7	3	島根県	7.7
4	宮城県 長野県 熊本県	5.2	4	鹿児島県	6.3	4	山梨県	7.4
			5	鳥取県	6.1	5	大分県	7.2
41	埼玉県	3.1	44	埼玉県	3.5	43	埼玉県	4.1
47	愛知県	2.7	47	沖縄県	3.0	47	千葉県	3.7

##### ※ 主なボランティアの種類

健康や医療サービスに関係した活動、高齢者を対象とした活動、障害者を対象とした活動、子供を対象とした活動、スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動、まちづくりのための活動、安全な生活のための活動、自然や環境を守るための活動、災害に関係した活動、国際協力に関係した活動

## 5 旅行・行楽

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	73.2	—	全国	76.2	—	全国	80.9
1	滋賀県	79.0	1	神奈川県	82.1	1	埼玉県	86.9
2	神奈川県	78.3	2	滋賀県	81.8	2	神奈川県	84.7
3	愛知県	77.6	3	東京都	81.7	3	奈良県	84.3
4	東京都	77.3	3	愛知県	81.7	4	東京都	84.2
5	奈良県	76.8	5	埼玉県	80.7	5	愛知県	83.9
6	埼玉県	76.7						
47	沖縄県	50.8	47	沖縄県	53.2	47	沖縄県	60.3

### (1) 旅行・行楽のうち「行楽（日帰り）」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	58.3	—	全国	60.0	—	全国	65.6
1	滋賀県	65.9	1	愛知県	67.3	1	埼玉県	71.5
2	愛知県	64.5	2	長野県	65.3	2	奈良県	70.6
3	岐阜県	63.3	3	滋賀県	64.9	3	群馬県	70.2
4	群馬県	63.0	4	福井県	64.6	3	愛知県	70.2
5	富山県 長野県	62.9	5	神奈川県	63.4	5	岐阜県	69.7
16	埼玉県	59.8	11	埼玉県	62.0			
47	沖縄県	34.9	47	沖縄県	37.4	47	沖縄県	44.8

### (2) 旅行・行楽のうち「観光旅行（国内）」の行動者率

平成23年			平成18年			平成13年		
順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
—	全国	45.4	—	全国	49.6	—	全国	54.5
1	富山県	51.5	1	東京都	59.2	1	埼玉県	62.6
2	東京都	50.9	2	神奈川県	58.7	2	東京都	62.2
3	神奈川県	50.6	3	埼玉県	56.1	3	岐阜県	60.3
3	愛知県	50.6	4	愛知県	55.3	3	奈良県	60.3
5	埼玉県	50.5	5	滋賀県	54.4	5	神奈川県	60.2
47	沖縄県	21.7	47	沖縄県	24.3	47	沖縄県	27.8

#### ※ 社会生活基本調査とは

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について10歳以上の者を対象に調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的として昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施されている。

今回は、自由時間等における主な活動に関する結果の公表であり、生活時間の配分に関する結果は、平成24年9月及び12月に公表される予定です。